**公益社団法人霧島青年会議所　第一回次年度理事会　議事録**

開 催 日：平成３０年９月２６日（水）

開会時間：２０時００分

閉会時間：２２時１５分

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　盛田　啓仁　君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　鈴吉　美絵　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　　　　重野　隆太　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　　　板元　幸仁　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　　　　田上　俊介　君
6. ２０１８年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上

７．２０１８年度理事長挨拶

理事長　前田　数馬　君

　お疲れさまです。とうとう第一回の次年度理事会ということで、次年度がスタートを切りました。まずは、先日開催されました鹿児島エアポートＥＸＰＯ２０１８事業につきまして、ご協力をいただき誠にありがとうございます。皆様のご協力のおかげをもちまして、素晴らしい事業になったのではないかと思います。また、先日本年度理事会が開催されました。本年度も終盤に差し掛かり、１０月には青少年事業、未来教室、そしてハロウィンなど大きな事業が控えている中で、この次年度の準備をしていかなければならないのは本当に申し訳なく思っております。しかし、２０１８年度の理事役員は２０１９年度にしっかりとつなげるように、今動いているところでございます。２０１９年度がしっかりとスタートできるように、私も動いていきたいと理事会には伝えております。

　２０１９年度の顔ぶれを見ますと、盛田くんだけが初めてということで、他の理事役員を見ると皆引き締まった顔ぶれで、本当に次年度は霧島ＪＣの魅力をきちんと伝えられるような顔ぶれになっているのではないかと思います。その中で盛田くんがどれだけ成長ができるかを、１年間居残りという立場で見守っていき、そして皆さんが協力して1年間という期間を全うしていただければと思います。

　藏元次年度理事長は、今必死に所信を悩んで考えているところで、ここが次年度の正念場であり、私も昨年の今頃は慣れない所信を書き、1年間霧島ＪＣをどのような方向性に進めればいいのかを悩み苦しんでおりました。しかし本年度の理事役員が揃っている中で、皆さんのすばらしい意見を所信に盛り込みながら、２０１９年度は一致団結して進んでいければよいのではないかと考えております。

皆さん、全員揃って開催ができることをお慶び申し上げて、理事長挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

８．２０１９年度次年度理事長挨拶

次年度理事長　藏元　国明　君

　皆さん、こんばんは。今前田理事長からお話がありましたが、いよいよ２０１９年度に向けてスタートをいたします。総会の中で少しお話をさせていただきましたが、来年度は横のつながりを大事にしながら進めていきたいと考えております。また、所信の中でも書かせていただきましたが、率先して行動する、また理事に関しては会員の模範になるように行動を私も含めてしていただくことを大事にしていただきたいと思います。

　所信に関しては、ここ最近私も寝ていないような状況ですけど本当に難しいもので、私も勉強をしながらやっているところではありますが、至らない点が多くあると思います。皆さんから忌憚のない意見をいただき、所信を整えていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

９．２０１９年度次年度顧問挨拶

次年度顧問　竹下　圭一郎　君

　まずは次年度理事会が本日開催されることをお慶び申し上げます。この青年会議所ができて３２年目に突入しようとしているところであり、そして平成が終わり新しい年号に変わる中で、この青年会議所がどのように進んでいかなければならないのかを考えていかなければならないこの時期に藏元次年度が手を挙げて２０１９年度の理事長をしていただくということに尊敬し、力強いリーダーシップを発揮していただけることを願っております。

　前田理事長が言われましたように、この次年度では盛田くんが新しい委員長、他の方は新たな役職ということで、単年度制ということもあり同じ役職は二度とはできませんが、全員新しい気持ちで、いくら経験を積んでいたとしても初心を忘れずに、何をやらなければならないのかを常に考えながら行動していただければと思います。藏元次年度が言われたように、理事役員が率先して行動していくことで会員の皆さんがそれに感化され、それに感化された勢いが霧島地域の皆さんにしっかりと伝播していくように、皆さんが邁進していただければと思います。

　今地方創生という言葉がありますが、皆さんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。地方創生の意味は、１.地方において安定した雇用を創出する、２. 地方への人の流れをつくる、３. 若い世代のファミリープランを実現する、４. 地域と地域を連携させる。これは内閣府情報政策会議の中で明確に謳われておりますので、自分から情報を取りに行き、率先して周りを引っ張って行っていただけたらと思います。地域を支えるヒト・モノ・カネ・情報は皆さんが一番アンテナを張って引っ張ってこないといけないでしょうし、これが地方創生に必要になってくると思います。是非、なぜ、なんのためにを自問自答しながら職務を全うしてほしいと思います。

　近年思うのが、分からないことを分からないままに進めるという傾向がありますので、分からないことがあれば聞きに行く、聞くことができなければ前に進めませんし、良い判断をすることができないので、横のつながりを大事にしながら情報共有をしていただければと思います。

　本日は藏元次年度の所信ですが、事前配信がなかったため私もまだ見ておりませんので、何故、なんで、何のためにという疑問点を持ちながら見させていただき、皆さんと一緒にこの霧島青年会議所を作っていけたらと思います。

　本日も一日よろしくお願いいたします。

１０． 議長選出

協議事項、報告事項：専務　　前田大悟

１１．議事録作成人並びに署名人の指名

議事録作成人：南郷英俊　財政局長

　　　議事録署名人：鈴吉副理事長、重野委員長

１２．出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 藏元国明 | 〇 | 鈴吉美絵 | ○ | 木野田幸平 | ○ | 田上俊介 | ○ | 重野隆太 | ○ |
| 板元幸仁 | 〇 | 盛田啓仁 | ○ | 前田大悟 | 〇 | 南郷英俊 | ○ | 橋正貴 | × |

　　理事１０名中９名出席により定足数を充たしていることを確認した。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | ○ | 竹下圭一郎 | ○ | 井上正樹 | ○ | 常盤大和 | ○ |

　　役員４名中４名出席により定足数を充たしていることを確認した。

１３．議題並びに資料の確認

協議事項２件　　連絡・報告事項３件

１４．議題

協議事項１：２０１９年度　理事長所信（案）について

前田(大)：藏元国明君、よろしくお願い致します。

藏元 ： 最初ですので、読ませていただきます。

　　　　 　　全文読み上げ

　　　　 　　正副対応説明

　　　　 よろしくお願いいたします。

【はじめに】

前田(大)：ありがとうございます。初めての所信ですので、項目ごとに進めていきたいと思います。まず、「はじめに」の部分から、ご意見ありましたら挙手にてお願い致します。板元くん何かありませんか。

板元：　 一つだけ教えてほしいことがあります。中段に「「明るい豊かな社会」の実現の理想へ向け確実な一歩を踏み出す」と書かれていますが、具体的にどのような一歩でしょうか。

藏元：　 こちらに関しましては、明るい豊かな社会の実現という大きな目標を達成するにはその過程がわかりづらいということで、現在未来ビジョンを掲げております。先日の総会でもお話いたしましたが、「常にまちの中心となり　共感の輪を広げ」という点で我々の運動を効果的に発信し、現状一方通行の発信が多くを占めていると思いますので、こちらから発信することで相手からも何か返ってくるという相違方向の情報発信に力を入れ、我々の活動・運動に理解をいただくということになります。また、「市民が活躍できるまちを目指します」という箇所では、我々会員も市民でありますので、活躍できる存在になってまちで活躍をしなければならないという点を考えております。こちらに関しましては、まずは資質向上からを考えております。

板元：　 ありがとうございます。

前田(大)：盛田君、何か言いたいことでもいいですのでありませんか。

盛田：　 特にありません。

前田(大)：重野君、何かありませんか。

重野：　 特にありません。

前田(大)：鈴吉君、ご意見など何かありませんか。

鈴吉：　 三行目に「様々な効果を地域に波及させてきました」とあり、その後の文章で「しかし、～」と続いております。理事長の仰りたいことは十分によく分かるのですが、この文章は「しかし」ではつながらないのではないでしょうか。この文章ですと、地域に波及させてきたけどまだ足りないという意味なのか、それとも地域に波及させてきています、けれども想像以上の想像以上のスピード時代が流れているため行動する必要がありますという意味なのか、よくつながらないような気がします。

藏元：　 私も読んでいて分かりづらいと感じましたので、修正いたします。

前田(大)：他に何かありませんか。板元君。

板元：　 このスローガンにした理由を教えてもらえればと思います。

藏元：　 率先垂範、自ら率先して行動して模範となるということで、まずは我々が動くということ、特に理事役員が動くこと、それを見た会員が動いて変わる、そして会員を見て市民が変わるという意味で書かせていただきました。また、私の性分として長いものよりも短い言葉の方が分かりやすいのではないかという思いもあり、このスローガンといたしました。

板元：　 ありがとうございます。

前田(大)：木野田くん、何かありませんか。

木野田：「大きな理想を成し得るには」という文章がありますが、理事長が思い描く大きな理想とは何かあるのでしょうか。

藏元：　ここで書かれている大きな理想とは、明るい豊かな社会の実現というＪＣが掲げている理想のことです。また、それに向けて一つひとつ進めていくということを考えております。

木野田： ありがとうございます。もう一点なのですが、「はじめに」の最後に「「未来ビジョン」を念頭に少しでも近づけるような活動をしてまいります」とありますが、せっかくですので少しでもではなく、それに沿っていくということを言っていただけたらなお良いのではないかと思います。

藏元：　それについては、少しでもという弱い気持ちではなく、より大きく近づいていけるようにしていきたいと思います。

前田(大)：田上君、何かありませんか。

田上：　 前半に２つの問題提起があり、最後のところでそのためにこういう風にしていくという形で書かれています。未来ビジョンに沿ってという所は分かりやすくてよいのですが、「激動する時代の変化を捉え危機感を持って行動する」という箇所の必要性が分かりづらいので、もう少し分かりやすく書いていただけたらありがたいです。スピードが速い、多様性を持っているということしか書かれていないので、もう少し深く書いていただければよいのではないかと思います。

藏元：： もう少し分かりやすいように修正いたします。

前田(大)：盛田君、何かございますか。

盛田：　 特にありません。

前田(大)：次年度監事、何かありますか。

井上：　 田上副理事長が言われた点を自分なりにもう少し言うと、率先垂範とはただ先に動けばいいのではなく、模範となるという意味が含まれていると思います。私が今の時代で思うのが、情報が簡単に取れるからそれに流されてしまいやすいというのがあると思いますので、ＪＣとして本当に正しい情報を掴み行動していく、誰よりも先にそのような情報を捉えて模範となる行動をしていくということがここで表現できれば、藏元次年度がこのスローガンで表現したいことを表現できるのではないかと思います。

藏元：　 ありがとうございます。井上監事が言われるように、自分から情報を掴み取りに行くということが本当に大事なことだと思いますので、そこを踏まえて修正させていただきたいと思います。

前田(大)：常盤大和君、何かございますか。

常盤：　 田上副理事長と井上監事が言われた箇所はまた次回変わってくると思いますので、他のちょっとした所なのですが、５行目の「「明るい豊かな社会」の実現の理想へ向け」とありますが、実現か理想のどちらかはいらないのではないでしょうか。また、一番最後に「少しでも近づけるような」とありますが、何に近づくのかを入れたほうがよいのではないでしょうか。

藏元：　 未来ビジョンに近づけるような活動というのがどのような活動なのかを記載したいと思います。

前田(大)：前田理事長、何かございますか。

前田(数)：私は、この「はじめに」の部分は大きなビジョンで、その下に細かいビジョンが続くという認識があります。今の文章の中の最後で、「本年は、激動する時代の変化を捉え危機感を持って行動するとともに、２０１７年に思い描いた「未来ビジョン」を念頭に少しでも近づけるような活動をしてまいります」と書かれていますが、これが最終的なビジョンなのかなと、ゴールなのかなと思います。せっかく、率先垂範という素晴らしいスローガンがあるので、そこがゴールに見えてこなければならないと思います。ビジョンがあるから、それに向かっていくからこうするのだというところが一番最初にこないと、強みが出ないというか、ただ未来ビジョンに沿っていくのかなという感じになるので、抽象的にはなるのですが、もっと強さが欲しいのかなと思います。もう少し、理事長らしい、理事長の想う大きなところをここで表現していただきたいです。未来ビジョンに近づけることでどうなりたいのかを書いていただけたらと思います。

藏元：　 理事長の言われる通り、ビジョンを掲げたら本年度も、また来年度もつながっていき、２０１９年度どこまで目指すかを踏まえて、明確に記載した方が皆さんも書きやすいと思いますので修正していきたいと思います。

前田(大)：竹下顧問、何かございますか。

竹下：　 率直な意見を言うと、この「はじめに」を読んでも、霧島青年会議所として全くモチベーションが上がりません。当たり前のことを当たり前にやられても仕方がありません。この「はじめに」は、しっかりと伝えたいことを伝えないと弱いかなと思います。未来ビジョンをするのは分かるのですが、そうではなくもっと最初にここで触れてほしいのは会員の意識をどうやって上げていくか。まだ「はじめに」の部分しか読んでいませんが、誰に訴えかけているかが分かりません。会員なのか地域の人なのか、誰に対してこの文章を作っているのかということをもっと明確にして、その人に伝わるように書いた方がよいのではと思います。今出た意見を踏まえながら、もっと構成を考えた方がよいと思います。

藏元：　 言われる通り、当たり前のことを当たり前に書いているだけでは伝わりませんので、私の想いを乗せながら、また誰に対して発信しているのかをもう少し分かりやすい形で修正をさせていただきたいと思います。

【会員一人ひとりの資質向上から機動的組織への進化】

前田(大)：続きまして、会員一人ひとりの資質向上から機動的組織への進化について、こちらに対してご意見等ございましたら、よろしくお願いいたします。重野君。

重野：　 会員一人ひとりの資質向上から機動的組織への進化という表現について、資質向上から機動的組織への進化という意味がよく分からないので、説明をしていただけたらと思います。

藏元：　 私のイメージ的には、組織というのは人、人がいないと組織は動かない。組織は人によって上がり、人も組織に所属することで上がるという双方の意味合いを込めて書かせていただきました。ただこの書き方だと、資質向上がないと組織の進歩がないとも読めますので、そこに関しては修正、もしくは書き方を考えていきたいと思います。

重野：　 ありがとうございます。

前田(大)：盛田君、何かありませんか。

盛田：　 大丈夫です。

前田(大)：板元君、何かご意見等ございませんか。

板元：　 会員一人ひとりの資質向上を図ることで会員にどうなってほしいのかを教えていただけたらと思います。

藏元： 　一番は、地域経済人として地域に貢献してくれる人材となってもらいたいと考えます。また、能動的に地域や市民を引っ張っていくような人材になってほしいと思います。

板元：　 ありがとうございます。そうであれば、今理事長が想ってらっしゃる部分をこの文章の中に少し書いていただければ、より分かりやすく、もっとイメージがしやすくなるのではないかと思います。

藏元：　 分かりました。

前田（大）：田上君。

田上：　 会員一人ひとりの資質向上というところが、地域経済を担う経済人というところと会員の資質向上というところが2つあって、どちらをどうすればよいかが明確ではないと思います。あまりたくさん、あっちもこっちもとしてしまうと分からなくなってしまいます。お話を聞く限りでは対内の資質向上だとは思うのですが、その点はどのようにお考えでしょうか。

藏元：　 事業内容としては、対内の方で考えております。ただ、地域を担う経済人としての研修は、実際会社でも活きると思いますのでそこをイメージして考えていただけたらと思います。

田上：　 ありがとうございます。文章の書き方が別々に見えてしまうのですが、流れがあるのは分かりましたので、文章の構成を再考してみてはどうかと思います。

藏元：　 文章の構成を見直し、再考いたします。

前田（大）：鈴吉君、何かございませんか。

鈴吉：　 個人の資質向上に関しての想い、文章の方が長いため、組織がこうなっていってほしいという点が少し薄いのではないかと思います。あと、「また、組織運営において、理事会構成メンバーとそうでないメンバーとの情報の共有がスムーズにできていない状況があります。理事会で決定された事項、連絡、報告については、執行部もしくは、各委員長により速やかに会員に対して周知し情報の共有を図ることが必要です」という箇所が総務の部分であると思うのですが、このままだと総務が何をやるのかが分かりにくいので、書き方をもう少し分かりやすく書いていただけたらありがたいです。

藏元：　 申し訳ございません。組織をどうしていくべきかを私も悩んでいるため、表現をどうするか、文章も短くなってしまっているため内容が薄くなってしまっております。再考し修正をさせていただきたいと思います。

前田(大)：木野田君、何かございますか。

木野田： だいたいニュアンス的には分かるのですが、読んでいて分かりづらいところが多々ありますので、もう少し端的に分かりやすく書いていただけたらと思います。

藏元：　 分かりやすく修正をさせていただきたいと思います。

前田(大)：次年度監事、何かございませんか。井上君。

井上：　 個人的に思うのは、何故組織力の強化を図るのか、その部分を入れてみてはどうでしょうか。また、地域のリーダーの資質とはどのようなものなのかを具体的に聞かせていただけたらと思います。

藏元：　 まず最初にご指摘をいただいた部分に関しては、「なぜ」の部分をもう少し深堀して書かせていただきたいと思います。また、地域のリーダーたる資質という点に関しては、月並みではありますが、地域、友人、知人等から頼られた際にしっかりと返せる、また面倒を見ることができるような者をイメージしております。

前田(大)：常盤君、何かございますか。

常盤：　 先ほど鈴吉副理事長が指摘をされた組織運営のところですが、こちらは執行部と総務がしっかりと内容を精査して、「必要です」で文章が終わっているので、どういったことが必要なのかを再度確認した上で職務分掌等に反映していただき、次年度からスムーズに動けるようにしていただけたらと思います。

藏元：　 ありがとうございます。

前田(大)：前田理事長、何かございますか。

前田(数)：機動的に行動できる組織へと進化することとはどういうことでしょうか。機動的とは、いち早く対応できるような組織でなければならないという想いが次年度にはあると思いますけど、それが背景に全く出てきていません。何故そうしなければならないのか、組織として何が足りない、今の現状がどうであるかが記載がないため、何をするかが見えづらいです。ただ研修をしてスキルを上げればいち早く対応できるのか、なぜ必要なのかがないので分かりづらいです。また、資質向上から機動的になる根拠がないので、やはり分かりづらいです。

藏元：　 ありがとうございます。何故の部分、背景が表現できていない状況ですので、対応をさせていただきたいと思います。

【戦略的な広報発信から拡大へ】

前田（大）：続きまして、戦略的な広報発信から拡大への部分についてご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。板元君。

板元：　　もう少し時間をください。

前田（大）：重野君、何かござませんか。

重野：　 スミマセン、私ももう少し時間をください。

前田（大）：田上君。

田上：　　最初の部分で、「戦略的に広報活動を行う必要があります」と書かれているのですが、事業の中身等で伝えられるべき目的等もあります。下の部分は戦略的な広報で対応できる部分ではあると思うのですが、上の部分は広報のせいだけではないというか、ここを広報に結び付けてしまうのは少し強引なのではないかと思います。

藏元：　　私の想いとしましては、色々な広報を見てきましたけど、やり方として一方方向が主だったのではないかということで、今後は双方向、前田理事長が以前やられた「どうする霧島」ではないですけれども、霧島のことを一生懸命考えているという広報をしながらで、市民から声をいただくという内容や、色々な方法があると思いますので視野を広げてほしいと思います。ただ書き方については再考させていただきたいと思います。

前田（大）：他にご意見等ございますか。竹下顧問。

竹下：　　質問です。戦略的な広報発信とはどういうことでしょうか。

藏元：　　言葉をそのまま使えば、しっかりとどのような形でやったら伝わるのかということをよく考えた上での発信ということになります。

竹下：　　広報と発信の違いとは何ですか。

藏元：　　広報することが発信することなので、確かに日本語としてはおかしいです。勉強不足です。

竹下：　　全体的に文章構成が長いです。意味合いは分かるけれども、もっと一つひとつに意味がないと。もしかしたら戦略的な広報で止まって、発信につながるのかと思いました。アドバイスするとすれば、これは委員会に対して一つのセクションにしていると思うのだけれど、ここはたぶん２つくらいにした方がよいと思います。戦略的な広報と発信から拡大ではないけれど、２つのセクションに分けて文章を構成した方が分かりやすいと思います。

藏元：　　ありがとうございます。私も書きづらい面がありましたので、一番は分かりやすい文章を書くことですので、その点を考えながら文章を構成したいと思います。

前田（大）：他、ご意見等ございませんか。前田理事長、何かございますか。

前田（数）：竹下顧問が言われたように、途中で文章が急に切り替わるのでつながりが分かりづらいです。２つに分けるのであれば、私はそれで良いのではないかと思います。ただ、「メンバーが協同して伝えていくことで、多くの方との協働に繋がる運動へと広がってくと確信いたします」という箇所が非常に分かりづらいというか、言葉も似たような類義語が連続していてゴールが分かりづらいところがあるので、そこをしっかりと書いてもらえたらよいのではないかと思います。

藏元：　　ありがとうございます。委員会がもちろん担当としてするのですが、ある意味全員で、今年思っている全員横並び、みんな一緒にということを表現したかったのですが、ちょっと文章が読みにくい状態にありますので、そこはまた書き直しを行いたいと思います。

前田（数）：それだったら逆に、会員全員が協力して広報するのではなくて、広報する人たちがこの霧島青年会議所のそれぞれの人間を広報するというスタンスで言った方が、みんなで広報するといってもなかなかできないと思いますので、広報委員会が何を広報するかといえば、それはやはりこの青年会議所のメンバー一人ひとりをこの地域にしっかりと広報していくということが必要ではないかと思います。

藏元：　　ありがとうございます。

【各種団体と連携したまちづくり・ひとづくり】

前田（大）：続きまして、各種団体と連携したまちづくり・ひとづくりについて、ご意見等ございましたら挙手にてお願いいたします。板元君。

板元：　　前段部分の、「諸問題解決に向け危機感を持って行動しなければなりません」という文章の行動しなければならないこととは、この一番上に書かれている全部に対してなのか、それとも人口減少や少子超高齢社会の到来で無関心からの社会参画は少なくなっていること等なのか、どこに対して危機感がかかっているのかを教えていただけたらと思います。

藏元：　　全てに対して危機感を持つというのが前提ではありますが、私が下の方で書いている内容から言いますと、社会参画が少なくなっていることや、社会的つながりが薄れているということ等、そのようなことに関してアプローチができればというイメージです。ただ分かりにくいと思いますので、修正いたします。

板元：　　もう一つだけよいでしょうか。今の流れで、単年度制ということもあり一年ではできないというような、内容的には続けていけるような事業を作りたいと思ってらっしゃるということで理解していてもよいでしょうか。

藏元：　　イメージ的には、このビジョンや、明るい豊かな社会に向けて地域の状況を反映しながら、各団体と協力して提言なるものができれば、それに向かって今後霧島青年会議所はその問題解決に向けてやっていくということができるのではないかと思います。

板元：　　ありがとうございます。

前田(大)：他、ご意見等ございませんか。田上君。

田上：　　一番下の段落のところで「選挙権が１８歳以上に引き下げられたことから」と書かれております。その文章の途中で「子供の段階から」とありますが、子供の段階とはいくつくらいからを考えてらっしゃいますか。

藏元：　　こちらに関しては、みらいくという手法がありまして、小学生、中学生、高校生とそれぞれ年代にあわせたプログラムはあるのですが、提言や社会実現ということを踏まえれば、小学生はできないと思いますので中高生というイメージではあります。

田上：　　ということであれば、１８歳以下のある程度分かるこということでよろしいでしょうか。分かりました。

前田(大)：他、ございませんか。田上君。

田上：　　文章を読ませていただきますと、霧島ＪＣ単体でやる事業ではなくなるのかなという気はしているのですが、そのような認識でよろしいでしょうか。

藏元：　　なるべく早くしていただいて合同で事業をしていただきたいという気持ちはあるのですが、スケジュールの問題もありますので、昨年井上監事が副理事長をされた提言などを考えたときに、青年会議所が主体的な立場を取り、そこに各団体を入れて、それをまた再来年以降につなげていけたらと良いのではないかと思います。

田上：　　そうすると、青少年とまちづくりが全く別物になってくるという気がします。まちづくりの共同事業とすれば来年ではできないかもしれない。次につなげていくという意味では、そこに具体的な事業がうてないのではないという可能性があるのではないでしょうか。時間的な問題もあるとは思いますが、それでは青少年は青少年で別の事業を作ればよいのでしょうか。

藏元：　　私が想っていたのは、全く別物ということではなくて、各種団体、各地域ある中で霧島ＪＣが音頭を取ってするというイメージでした。例えば、みらいくをもしするのであれば、霧島ＪＣが率先してやりはするけれども、他の青年団体さんと協力をしながら、みんな一斉にやるとういイメージです。単独でするのではない。今回、広域連携を行政とプラスαでやった部分を、民間をがっつり入れてやっていきたい。

前田(大)：鈴吉君。

鈴吉：　　２段落目の最後に、「我々が行うまちづくりには、新たな創造性が必要であり、そこに新しい感性を吹き込むため、自由な発想を持った学生など若い世代を効果的に巻き込んでいくことも必要です」とは、今仰った、他団体プラス青少年というイメージでしょうか。

藏元：　　そのようなイメージです。なので、小学生ではなく中高生を考えております。

前田(大)：井上君。

井上：　　全体的には分かるのですが、この団体の連携や地域の連携については、私はあくまでも手法として捉えていて、個人的には何を解決するために連携をしたいのかが見えないと思います。連携を組むのはいいけど、では何のために連携を組むのか、具体的にまちづくり連携で集めるとなった時にも、集まってじゃあ何をしましょうかでは絶対ダメだと思いますので、それをここに表現したらより分かりやすいのではないかと思います。

藏元：　　ありがとうございます。私の想いとしては社会参画意識を高めたい、それをすることで市民が活躍できるまちにつながってくると思いますので、そこのところを下の方に書いておきたいと思います。

前田(大)：他、ご意見等ございませんか。常盤君。

常盤：　　井上監事も言われたのですが、今聞いている限りでは教育機関とか各種団体、青少年を入れてとすごくイメージはできるのですが、それをすることでどうなるということをここにきちんと書いていただければ、委員長もすごくイメージがしやすくなるし、今出た話がこういう手法なのだなということが伝わっていると思うのですが、何故しないといけないのか、何故必要なのかを書いていただければと思います。下に選挙権が１８歳に引き下がったことが書かれていますが、引き下がったから必要ということではなくて、引き下がったにも関わらず投票率が低いから問題だと思いますので、そういう点を背景として書いていただければ良いのではないかと思います。

藏元：　　ありがとうございます。

前田(大)：盛田君、何かありませんか。

盛田：　　大丈夫です。皆さんの意見を聞いて、なるほどなと思いました。

前田(大)：前田理事長、何かご意見等ございませんか。

前田(数)：今、監事からもありましたように、理事長が想う街像、どういう街にしたいというゴールが見えていないです。また、せっかく良いスローガンなのにスローガンが強く出ていないように感じます。ただ皆さんと協同しましょう、皆さんで作り上げましょうではなく、我々が率先して活動してみんなを引き連れていくぐらいのスローガンのような気がしますので、その点をもっと強く出してあげてもよいのではないかと思います。

藏元：　　ありがとうございます。今はスローガンがほぼ入っていない状態ですので、再考をいたします。

【おわりに】

前田（大）：おわりにの部分で、何かご意見等ございませんか。はじめにからずっと流れてきましたが、また改めて文章は変わることになるとは思いますが、現時点で確認をしたいことがありましたら挙手にてお願いいたします。板元君。

板元：　　自分は理事長になったことがないので分からないのですけれど、一番最後の「先駆けとなり全力で突き進みます」というのが藏元次年度が来年一番したいことなのか、次年度がこういう風にいきたいと思っているのかというところを教えていただけたらと思います。

藏元：　　まずはトップたる人間がこのスローガンのもと、率先垂範をしなければ示しがつかないと思っておりますのであえて書かせていただきました。

板元：　　スローガンと一番最初に次年度が仰っていた横のつながりという部分もあると思いますが、それは我々委員会にも課せられていると思いますので、今のこの文章だと理事長が一人で突き進まれていかれるのかなという、突っ走って行って我々は後を追いかけていけばよいのかなというイメージを受けてしまうので、スローガンにあったような意味合いで書かれているのであれば、もう少しだけ寄り添っていただければ助かるのかなと私は思います。

藏元：　　スミマセン、私の想いが伝わるように改めて修正させていただきたいと思います。

前田（大）：その他、ご意見等ございませんか。次年度顧問、よろしかったでしょうか。

竹下：　　正直、このさいごにの文章は全部いらないと思います。意味が分からない。自分の気持ちを書くのではなく、やはり組織のトップなので組織のことを考えて文章を書いてほしい。また、一番最初に言いましたが、全体的な文章構成が分かりづらいからなかなか伝わらない。想いはあるのだけれども、その想いが文章に反映されていないということは、やはり文章一つひとつに根拠がないからではないかと思います。ここからはアドバイスですが、イメージ的に言うと、２０１９年度、先ほど井上監事が言われていましたが、課題・問題というものを抽出してください。２０１９年度で解決しなければならない課題・問題を抽出した上で、その課題・問題をしっかりと解決していく策を、この理事長所信にしたためると、皆さんが分かりやすく一年間を全うしていくことができると思います。今は、あれもしたいこれもしたいというイメージだけで、じゃあそのイメージがどういう風な結果を生み出すのかということが全ての文章に入っていないので、それを入れてください。また、次年度がこのスローガンをしっかりと来年会員の皆様に浸透させるためには、このスローガンの意味合いが入ってこないと来年1年間は右往左往する１年になるかと思いますので、やはり率先して行動するとはということをこの文章の中に織り込んでほしいと思います。

藏元：　　ありがとうございます。理事長、顧問、理事長経験者が大勢いらっしゃいますので、相談させていただきながら修正させていただきたいと思います。

前田（大）：以上を持ちまして、２０１９年度理事長所信（案）については閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

鈴吉：　　休憩動議

重野：　　セコンド

藏元：　　休憩動議

全会一致で可決

２１：４５まで休憩

協議事項２：２０１９年度　組織図(案)について

前田(大)：２０１９年度　組織図(案)について、先日の正副にてある程度のメンバーは決めさせていただきました。私の間違いで委員メンバーをＨＰ上に載せてしまいましたが、３委員会で割り振りをさせていただきました。次年度から説明をお願い致します。

藏元：　こちらに関しましてはお詫びと言いますか、採用に関してはドラフト制でやるつもりでしたが、会員数を見たとき、また今後のバランスを見たときに、やはり正副のメンバーで話をして決めた方が良いのではという形になりましたので、一応このような形になりました。このメンバーの方々については一言ちょっと言ってありますので、その旨あった場合には、こちらに報告をいただければと思います。あと執行役員という形で繁昌くんがブロックに出向をするということで話をしております。来年は久しぶりに顧問がいらっしゃるということで、この組織図の並びについては顧問に相談をさせていただきながらで、このような形が良いのではとアドバイスをいただきましたので、このような形になっております。

井上：　繁昌さんの出向は決まったのですか？

藏元：　本人には話をして、行かしていただきますと。上司の方にブロックに出向された方がいらっしゃるみたいで、その方の話を聞いてチャンスだよと、ただちゃんとやらないと共倒れになるからね、それだけの覚悟があるなら行けばいいよと後押しをしてくださったみたいなので、そこを踏まえて繁昌君が行くという決断をしてくださいました。それについては次年度のブロ長の嶽釜君には報告は済んでいます。

井上：　印鑑とか必要になりますので、よろしくお願いいたします。

藏元：　そちらについて、本年度の理事長の印鑑が必要になるということですので、本人と話をしながらで早く進めていきたいと思います。また分からないことがありましたら、ブロック専務の井上君の方にご相談させていただきますので、よろしくお願いいたします。

前田(大)：前田理事長。

前田(数)：この執行役員については、理事会招集を行いますか。責任感が強い人間なので、執行役員という立場で理事会メンバーに入れておくと本人はかなりキツイのではないかと思うのですが。

藏元：　そこについては本人とも話をして、執行役員でもあり委員会メンバーでもありますので、そこはバランスを見ながらすると。ブロックの会員会議所については私も出ますのでそちらの方で対応するなり、また運営方の方からブロックに問い合わせをして連携を図るなりしながら、理事会に絶対に来ないといけないという状況にはしないようにしていきたいと思います。前に新里さんが来られたような感じで声掛けをして、来られるときには来ていただければという感じになると思います。

前田(数)：組織図の中の二重丸をつけるかという点はどうしますか。二重丸をつけていたら常に出席というような扱いになってしまうので。

藏元：　それについてはまた、理事長、顧問、監事、運営方と相談させていただいて、ご本人とも相談させて進めていきたいと思います。

井上：　細かい点になるのですが、安満さんの漢字が違います。

前田(大)：スミマセン、修正致します。他、ございませんか。それでは、２０１９年度　組織図(案)については閉じさせていただきます。

連絡・報告事項

連絡・報告事項１：２０１９年度　共通認識事項

前田(大)：こちらの方は理事研修で出す予定でしたが、本年度の理事研修は理事の役割に重きをおきましたので、理事会の方で出させていただきました。変わった点は赤と黄色の部分です。

　　　　　共通認識事項の変更箇所について説明

　　　　では、特にないようでしたら以上で閉じさせていただきます。

連絡・報告事項２：２０１９年度　職務分掌

前田(大)：それぞれの役職に対する職務についてです。

　　　　　職務分掌について説明

板元：　公益法人についての動きとは何でしょうか。

藏元：　現在、公益社団法人ということで取得をしておりますが、こちらを一般社団法人に変える方向で動きを進めたいと思います。動きを進めて、８月総会で決議をした場合に、さらに１月１日から一般社団法人という形になりますので、そこはまた運営と、特に南郷君を中心に会員に対しても説明責任を果たしながらで進めていきたいと思います。これに関しては、本年度の前田理事長と竹下顧問ともご相談をさせていただきながらでやっていきます。監事の方々に関しましても、ご協力をいただかないといけないことが出てくると思いますので、よろしくお願いいたします。

板元：　ありがとうございます。

竹下：　議事録は橋君だけ。

前田(大)：今のところはそうです。

竹下；　今後のことを考えるのだったら、各委員会一人議事録を作って進めていくという環境を作った方が今後のためには必要かなと思います。

藏元：　そのようにお話もいただいておりましたので、私としてもそのように考えておりましたが、例年理事会の開催に関しましては理事役員だけにご案内をしておりますけれども、全会員に対して理事会の開催をご案内いたしまして、オープンな形でいつでも来られるという形にしながらで、顧問からアドバイスをいただいた通り委員会の委員の方々のご協力をいただきながら進めていきたいと思っているところです。またそこに関しては運営と話をしながら、また委員長さんとも話をしながらで進めさせていただければと思います。

前田(大)：以上で職務分掌については閉じさせていただきます。

板元：　延長動議

重野：　セコンド

藏元：　延長動議

全会一致で可決

２２：１５まで延長

連絡・報告事項３：２０１９年度　基本方針フォーマット

前田(大)：次の正副から、次年度副理事長の３名の方には基本方針の作成に入っていただきます。次年度とお話をさせていただきながら、今回は８００文字でいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。こちらのフォーマットを利用していただいて、背景が２００文字、目的が４８０文字、結果が１２０文字になります。よろしくお願いいたします。

藏元：　書き方については、ブロックのやつがあります。その方が書きやすいと思いますので、それにある程度則った形で書いていただければ整理もしやすいと思いますので、また見ていただければと思います。

前田(大)：以上で、連絡・報告事項を閉じさせていただきます。

１５．監事講評

次年度監事：井上　正樹　君

　皆さん、お疲れ様でした。いよいよ、２０１９年度に向けた次年度理事会が開催されまし

た。改めまして、次年度監事としてやらせていただきます。よろしくお願いいたします。

今回、理事経験の方が多いということで冒頭お話がありましたが、だからこそできることと、

その経験を活かしてより素晴らしいことができると思います。竹下顧問が言われたように、

初心に返ることとうまくバランスを取りながらやっていただきたいと思います。盛田君に

関しましては初めてということで分からないことも多かったと思いますが、個人的な経験

からの意見なのですが、この理事長所信というものは会社でいうと社長のビジョンのよう

なもので、２０１９年度が全てこのビジョンで決まります。トップのビジョン以上に物事は

進まないと思っていますので、この次年度段階でいかに高いビジョンを作り上げるか、それ

を皆で作り上げていく、決して藏元次年度だけが作るものではなく皆で作っていくものだ

と思います。よく、委員長はしたいことができないという話がありますが、僕は委員長がし

たいことはできると思っています。それをするためには、今ここが大事です。どういうこと

かと言うと、今理事長所信でこうして修正していく中で、自分がやりたいことを持っていて、

それと照らし合わせて理事長所信を見ていれば、自分が想っていることと理事長が書いて

いることと違いが出てきて、何でそうなるのだ、僕はこう思う、こうしたいというくらいの

意見が出れば、やりたいことが理事長所信にたぶん反映されていくのではないかと思いま

す。ではそれをするために何をしていかなければならないかというと、結局自分が勉強をし

なければいけない。今の段階で、来年何が必要でどういう課題があるか、何をしないといけ

ないかを自分なりに勉強をして持っていれば、今の次年度段階で理事長所信に対して意見

が言える、そこで理事長と意見が合えば理事長所信に反映され、結果的に自分がやりたいこ

とが理事長所信の中に出てくる。そしてそれに則ってやっていけば、自分のやりたいことが

できるということになります。僕は勉強しなかった委員長ですけど、しなかったからこそ、

そういうことが必要だと思います。大変ではありますけれど、次年度で全てが決まると思っ

ておいた方がよいと思います。次年度が全て終わって２０１９年度がスタートしたら、ここ

で高い所まで上げたものを後は降りていくだけなので、そのためにもキツイけれども今の

段階で自分がやりたいことを見つけて、勉強して、そこに根拠をもって理事長所信にぶつけ

たら来年スタートする時にはスムーズにスタートできるのではないかと思います。そのよ

うな形でやれば、すごい一年になるのではないかと期待しております。本日はお疲れ様でし

た。

次年度監事：常盤　大和　君

　本日、橋次年度事務局長が欠席ではありましたが、無事定刻に開催できましたことを喜ば

しく思います。今日は１回目ということで、理事長所信だけがメインでしたが、ここの協議

が一番難しくて揉まなければならないところです。ただ今回一回目ということで、委員長の

皆さんも私たちも初見ということでなかなか意見が出せない状態ではありました。副理事

長の皆さんは正副を挟み２回目ということですので、より意見を出せると思いますので、

もっと意見を出していただければ、会もスムーズに進むのではないかと思います。今後第２

回目からは副理事長の皆さんの方針も出てきますので、時間も押してくると思います。でき

れば、今後は事前配信をしていただければ、私たちも目を通して会がスムーズに進むと思い

ますので、皆さん時間が少ない中でされていることとは思いますが、努力をしていただけれ

ばと思います。私もこの監事講評をこれから約２０回、皆さんで顔を揃えて色んなことを揉

んでいかなければならないと思いますが、竹下顧問が言われたように初心を忘れないで、３

回目の委員長はしっかりとメモを取りながら進めておりますので、盛田委員長も次回から

はメモを取りながら、この２人の委員長に追いつくような形で頑張っていただけたらと思

いますし、私自身も監事ということで、井上監事とは違う立場で意見を言わせていただけた

らと思います。一年間、よろしくお願いいたします。

１６．次回開催日時・場所の決定

　　　１０月 ３日(水)　２０：００　第二回正副理事長会議

　　　１０月１２日(金) ２０：００　第二回理事会

　　　場所：ＪＣ会館

１７．閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　木野田　幸平　君

議長・理事長（代表理事）　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　鈴吉　美絵　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　重野　隆太　　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　井上　正樹　　　　　　　　　㊞